

2026年(令和8年)
2月1日 曜日
特別号

京都自動車新聞



本紙はこのたび創刊2000号を迎えました。長きにわたるご愛顧に対し厚く御礼申し上げます。

発行所 京都自動車新聞社 京都市伏見区竹田向代町51-5(京都自動車会館内) 電話(075)672-0552 ファクス(075)682-0205 メール access@kyotojidosha-np.jp https://kyotojidosha-np.jp

業界に支えられ創刊2千号

京都の出来事追い続けた62年間 全業界人へ敬愛と感謝を込めて



創業者の山田國藏

本紙の前身、交通時事新聞は1964(昭和39)年6月1日に産声をあげた。ブランク版2面構成で、発行所は京都市上京区浄福寺西にあった創業者、山田國藏の自宅。当時、京都府自動車整備振興会の副会長だった中川武治氏(相互車輻)の後押しのもと、業界専門ローカル紙の創刊にこぎ着けた。その下準備にあたっては、京都府家用自動車協会の松田道明氏や、國藏が徴兵時に知り合った陸運事務所所長の小船氏からバックアップを受けたという。時代はモーターゼーション真っただ中。空前の自動車ブームで、府下の保有台数は16万6000台と急速に増えつつあったが、同時に交通事故が社会問題化し、新聞紙上では「交通地獄」さらには「交通戦争」と表現されるほどの深刻なありさ

たのが、他ならぬ京都自動車会館の設立構想だ。従前、市内各地に点在していた関連団体をひと所に集約させる計画で、二つの建設予定地をめぐって議論は長期化したものの、伏見区竹田向代町に建造することで収束をみた。晴れて業界の基盤が築かれたというわけだ。知っての通り、運輸支局と会館はそのまた40年後に建て替えが行われ、現在に至る。いずれにせよ、本紙のこれまでの六十余年にわたる沿革は、支局、会館と共に歩んできた歴史であることは言うまでもない。当然のことながら、京都府自動車整備振興会、京都府トラック協会、京都府自動車販売店協会、京都府中古自動車販売協会、京都府自動車車体整備協同組合をはじめとする自動車関連団体とその傘下事業者抜きには、本紙の歩みを語るはずなからう。

印象深いあまたの記憶

「最も鮮明に覚えているのは会議所の設立だろうか」。当社前事務の貞松昌男は記憶をたどり、こう振り返る。69(昭和44)年、定款な

たのが、他ならぬ京都自動車会館の設立構想だ。従前、市内各地に点在していた関連団体をひと所に集約させる計画で、二つの建設予定地をめぐって議論は長期化したものの、伏見区竹田向代町に建造することで収束をみた。晴れて業界の基盤が築かれたというわけだ。知っての通り、運輸支局と会館はそのまた40年後に建て替えが行われ、現在に至る。いずれにせよ、本紙のこれまでの六十余年にわたる沿革は、支局、会館と共に歩んできた歴史であることは言うまでもない。当然のことながら、京都府自動車整備振興会、京都府トラック協会、京都府自動車販売店協会、京都府中古自動車販売協会、京都府自動車車体整備協同組合をはじめとする自動車関連団体とその傘下事業者抜きには、本紙の歩みを語るはずなからう。



④旧検査場の様子(65年ごろ) ⑤現在の支局

ともあれ、時代が移ろい、感謝の思いを込めて。◇ 全ての業界人に敬愛と感謝の思いを込めて。日10000円乗り放題と印象深い出来事は数え切れない。近年では、中古車販売大手による保険不正請求事件も、業界史に残る大問題だろう。その後も、各種規制緩和や自動車リサイクル法の施行、原油価格高騰、メンテナンスパックの発売、衝突軽減ブレーキの商品化とこれに伴う前突事故の激減、高速道路休



⑥旧・京都自動車会館の竣工式(63年7月) ⑦現在の自動車会館



うとも本紙の役割は変わらない。当社の共通コンセプトである「京都の車社会のために、京都の自動車業界と共に」を体現し、業界の直面する現状や、そこで生まれたトレンドをさまざまな側面から伝え続けることこそわれわれの使命であり、本願だ。応援の言葉や叱咤激励のみならず、厳しい評価に痛烈な批判すら全て糧にし、業界と社会に

祝



(株) 京都自動車会館
京都自動車健康保険組合
京都自動車青年会議所
京都府軽自動車協会
京都府自動車車体整備協同組合
京都府自動車整備商工組合

京都府自動車電装品整備商工組合
京都府自動車部品商組合
京都府タイヤ商工協同組合
京都府中古自動車販売協会
京都府トラック事業協同組合連合会

一般社団法人 京都府バス協会
一般社団法人 京都府レンタカー協会
全日本ロータス同友会京都府支部
一般財団法人 日本自動車査定協会京都府支所
一般社団法人 日本自動車連盟京都支部 (五十音順)